



増設工事はラストスパートに

このところ晴れ渡った夜空が見られませんが、夜更けに木星が出ています。

日没後の滅多にない明るさの金星は措いとして、深夜に冬の大三角と並んだ木星は、シリウスでさえ圧倒する輝き。神々の王ジュピターの名に恥じぬ神々しさだと、元吹奏楽部員のユーフォニアム吹きとしては感慨にふけるのです。脳内で鳴りわたる音楽は平原綾香の歌ではなくて、原曲であるグスタフ・ホルスト作曲の組曲「惑星」から「木星」。いや原曲はオーケストラ版なので、編曲版の吹奏楽でした。ユーフォの最高にかっこいいソロがあるのです。

❖ 作文に役立つ一生ものの本

作文というと小学校で書かせられた「夏休みの思い出」とか「読書感想文」とかがよみがえってうんざりしますが、長じてもレポートや仕事の文章などの作文はついて回ります。必要に迫られての作文が上手になりたいと、『日本語の作文技術』（本多勝一著、朝日文庫、1976年）などの指南書をいろいろ読んできました。読みの浅さは致し方ないとしても、どうもこれさえあればというものはありません。そして、ついに巡り合ったのは30代後半だったでしょうか。

それが、木下是雄の『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）です。100万部を超えていまだに増刷が続く大ロングセラーなので、とやかく言うことはないでしょう。明晰な文章を書くために、これほど役立つ本はないと思います。例えばパラグラフ（段落）の意義と構成について、私は初めて理解し納得することができました。「理科系の」とあるために文系には関係ないと敬遠していた自分が残念でなりません。もしも『理科系の作文技術を盗め』といった書名だったら、もっと早くに読んだと思うのですが、格調高い中公新書ですからそれは無理というものでしょう。

そんなわけで、もう少し文章力を鍛えたほうが良いと思われる若手には、この本を勧めたりあげたりしています。私の文章はこんなですから偉そうに講釈を垂れる資格はありませんが、著者の木下是雄（1917―2014）は何たって学習院大学の学長だった方ですからね、権威も充分。読んでくれたかなあ。

ちなみにこの本は大館市立図書館に所蔵はありません。県内の公立図書館でも3館のみです。なにしろ初版発行が36年前なので、所蔵していたところも既に除籍された可能性が高いようです。相互貸借で取り寄せることはできますが、何度も読み返したくなる本ですから興味のある方はぜひ書店で買ってほしいものです。税込756円。自分への投資としては安いものだと思います。

❖フレドリック・ブラウンは死なず

60年代から70年代にかけて、創元SF文庫と創元ミステリ文庫、それにハヤカワ文庫SFなどから続々と出版されていたのがアメリカのSF・ミステリ作家フレドリック・ブラウンの諸作品。70年代前半に学生時代を送った私にとっては、高校生の時に星新一、小松左京、筒井康隆の文庫本で目覚めたショートショートの世界を一気に広げてくれる存在でした。長編SFでも『火星人ゴーホーム』のドタバタが面白くて面白くて……。

つまり大好きな作家だったのですが、本人が1972年に亡くなっていることもあり、サンリオSF文庫から星新一訳の『フレドリック・ブラウン傑作集』が1982年に出版されたことは知りませんでした。知ったのは同文庫が1987年に廃刊した後で、この本の古書価は急騰し、というか北東北の古書店ではまず見かけることもありませんでした。

それが、90年代にブックオフが創業して青森・弘前・秋田などにも出店すると、ポツポツ同書を見かけるようになりました。しかも、ブックオフの値付けは古書価とか考慮せず本の新旧と状態だけによるので、出会うのは100円均一棚ばかり。セドリのつもりはないけれど、たしか3度出会ってその都度買ってしまいました。

長々と書いてしまいましたが、書こうとしたのはそのことではなくて……。2005年早川書房から「異色作家短編集」シリーズの一卷として、同じ星新一訳の『さあ、気ちがいになりなさい』が発行されました。今どきこのタイトルで大丈夫なのかと思わないでもないですが、同書が昨年10月に文庫化されました。中央図書館でこのハヤカワ文庫SF版を所蔵しています。意外に古びないF・ブラウン節をぜひご堪能ください。明日は彼の命日でもあります。

中央図書館の増築工事はいよいよ3月24日（金）完工予定です。25日からは現在使用禁止になっている駐車スペースも使えるようになります。ご協力ありがとうございます。もう少しの辛抱です。 （陽）